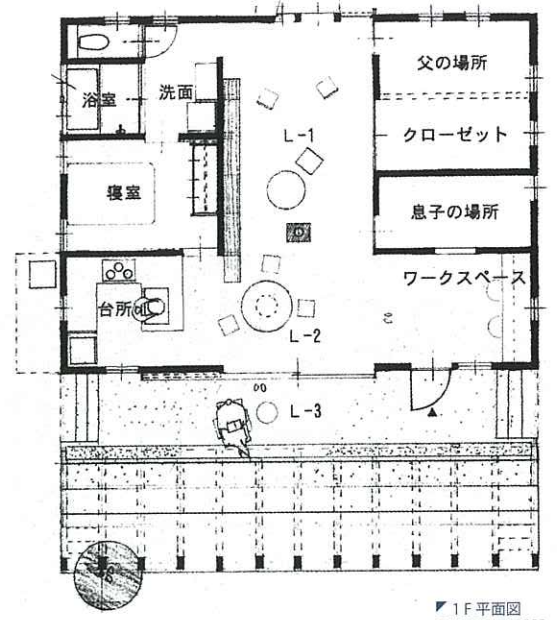


道路を行き交う人たちと会話を



Gunma Housing Award

05.



05. 地域デザイン賞 mat house

Gunma Housing Award

設計者 / K A Z 建築研究室
施工者 / 有限会社 藤建設工房

Concept 設計趣旨

建て主は地域との繋がりを大切にされる方です。工事直前までの2年間は既存建物(解体)に住んでみて周辺環境などを体験しました。道路を行き交う人たちと会話をしたり挨拶を交わしたり。このことはこの住宅に大きく反映されました。大きな開口部は道路に対してカーテンで閉じるのではなく、道路に対して開くという考え方で地域とのコミュニケーション機能を持たせました。隣近所との関係が薄れ、地域社会のコミュニティが崩壊している現在では、昔ながらのこのことはとても重要です。また、群馬県はとても暑い地域です。建て主の希望もありソーラーのような機械には頼らずに自然のままの断熱方法を選択しました。コスト削減にも一役かきながら、地球環境やエネルギーを考慮した住宅です。屋根の芝張りは建て主家族・設計者・近所の子供たちなどが参加して行いました。庭まで延びた13本の斜めの梁は今後グリーンカーテンとなります。真夏の暑さを遮断すると共に、屋根の緑と繋がって庭から屋根まで緑で覆われます。内部は個室を最小限にして家族が常に中央のリビングに集まるプランです。家庭内のコミュニティも大切にしたい住まいなのです。

Review 講評

目の前に広がる田園風景を存分に楽しめる敷地に、溶け込むように造られた住まいです。南側道路に面して、13本の斜めの登り梁に連続して一枚の大きな芝生屋根が、ほぼ正方形の平家の平面・屋外のテラスと室内が一体となった大空間を内包しています。斜めの登り梁の影が落ちるテラスに面した大開口部から、内部空間へと導かれる。玄関・ワークスペース・ダイニング・オープンキッチンと連続し、奥中央にリビングが広がり、北側のハイサイドライトから自然光が程よく入っています。大震災を経て住まいに対する新しい価値感を見つけている現在、地域との繋がりを大切にしたい、家族が楽しく生活できることが重要という建て主の思いがあり、地球環境や自然エネルギーを考慮した住宅、自然のままに断熱する草屋根に包まれたダイナミックな内部空間が、これからの住まいのあり方を予感させてくれる家があります。

